

自己の内面を読む 2

マタイによる福音書とともに



マタイによる福音書の中心には、わたしたちの家に迎えられることを願う父である神がおられる。それは心の部屋であって、そこでやっと、わたしたちは自分自身でいることができる。

イエスに伴われ、神のことばに照らして自己の内面、人生の歩みを振り返るよう導かれるとき、今日のわたしにより知らせが語られる。

イエスは、わたしたちの人生の湖畔を通りながら、わたしたちを身動きできなくさせるもの、意味を見いだせなくしているものから、わたしたちを解き放つ。

著 ガエタノ・ピッコロ

イエズス会司祭。

1973年イタリアのナポリ生まれ。

教皇庁立グレゴリアン大学で形而上学を教える。

個人的な霊的体験をととして、聖書への一つのアプローチを展開。それは、神のことばと出会うことで、各自の人間的なダイナミクスを浮かび上がらせ、心が照らされ、癒やされることをめざしている。著書に『自己の内面を読む—ルカによる福音書とともに—』(女子パウロ会)がある。

訳 松岡 陽子

聖パウロ女子修道会会員。

I イエスの出現 (マタイ1・18～4・23)

1.目覚め 2.恋しくて、あなたを探している 3.別の神 4.決意する 5.抜け道 6.網!

II 山上の説教 (5・1～7・27)

7.幸いは学べるか 8.誰にでもブルーチーズを贈ってはいけない 9.その映画が嫌ならチャンネルを変えなさい!
10.愛の出納係 11.誰かがわたしに先んじた 12.狩猟シーズン終了 13.検証の時

III 教会共同体 (11・2～18・35)

14.精神衛生 15.きずな 16.儉約は、もうけにはならない 17.時間は律義者 18.本当に、これをする価値はある?
19.過去へのダイビング 20.わたしの城の密室で 21.内なる声 22.あなたを失いたくない 23.ゆるすことは生み出すこと

IV 神の招き (20・1～22・40)

24.最後の呼びかけ 25.あなたが息を引き取るときに 26.あわれみのぶどう園 27.ボンボニエール 28.お金は臭わない
29.愛の翼

V 終末・受難・復活・弟子の派遣 (24・36a～28・20)

30.夜、待ち焦がれた静謐の港に向けて 31.闇の時を生きることを学ぶ 32.なぜ、生きていけないといけないか、教えて
33.人間性を放棄してはならない 34.わたしの受難物語 35.愛のあふれ

税込定価1,650円(本体1,500円+税) B6判 272頁 並製 ISBN978-4-7896-0833-6 C0016